

MEXT 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)との対応

モデルカリキュラム		対応箇所
導入	1-1.社会で起きている変化	INTRODUCTION(イントロダクション)
	1-2.社会で活用されているデータ	INTRODUCTION(AIは何をしている?)
	1-3.データ・AIの活用領域	INTRODUCTION(AIは何をしている?、活用事例)
	1-4.データ・AI利活用のための技術	INTRODUCTION(AIは何をしている?、活用事例)
	1-5.データ・AI利活用の現場	INTRODUCTION(活用事例)
	1-6.データ・AI利活用の最新動向	INTRODUCTION(活用事例)
基礎	2-1.データを読む	STUDY(第1回～第3回)
	2-2.データを説明する	STUDY(第1回～第3回)
	2-3.データを扱う	STUDY(第1回～第3回)
心得	3-1.データ・AIを扱う上での留意事項	STUDY(第1回～第3回、まとめ)・基礎情報処理
	3-2.データを守る上での留意事項	STUDY(第1回～第3回、まとめ)・基礎情報処理
選択	4-1.統計及び数理基礎	確率, 統計学

	機械工学科	電気電子システム工学科	電子制御工学科	物質工学科	環境都市工学科
シラバス	基礎情報処理				
	確率				
	統計学				

[INTRODUCTION](#)
[STUDY](#)

プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. AIとはどんな技術であり、どんな活用例があるか説明できる。
2. ディープラーニングのフレームワークを利用して簡単なAIが実装できる。
3. データの代表値, 散布図および相関係数・回帰直線を理解する。
4. 標本分布, 中心極限定理を理解する。また, 推定概念を理解し, 区間推定ができるようにする。

実施体制

運営責任者: 校長

プログラムの改善・進化: AIR Tech ワーキンググループ

プログラムの自己点検・評価: 教務委員会